

前編

元和大殉教って何？

江戸時代初期に起った徳川幕府によるキリシタン大迫害のうち、「長崎の元和大殉教」と「江戸の大殉教」は2022年から今年にかけて400年の節目を迎える。日本カトリック中央協議会、列聖推進委員会では、2022年9月10日〜23年12月4日にかけての15カ月を、「愛のあかし・元和の大殉教400年」として記念し、日本の教会にとって共通の遺産である殉教者の霊性に学び、ともに祈り、殉教者の生き方に倣う機運を高め、福音宣教の力にしようとしている。元和の大殉教とはどのような出来事だったのだろうか？

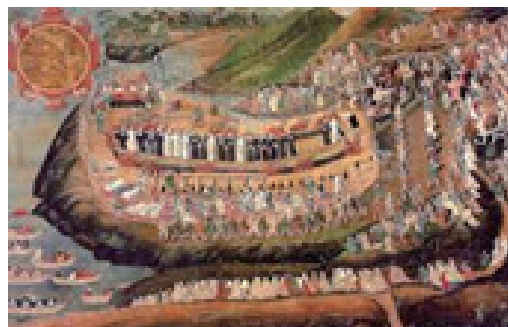
Q 元和の大殉教とは？

A 元和8(1622)年9月10日、長崎西坂の丘でキリシタン55人が、火刑・斬首によって殉教した事件。長崎や大村の牢につなげられていたキリシタンが刑場に引き出され、25人が火刑に、30人が斬首された。処刑されたのは、イエズス会司祭カロロ・スピノラはじめフランス人会やドミニコ会の宣教師と日本人木村セバスチャンなどのバテレン(修道会司祭)9人、諸修道会のイルマン(修道士)13人、指導的立場にあった信徒、宣教師に宿を貸した者だった。そのなかには、80歳の老婦や子ども6人も含まれていた。殉教に際する立派な態度は世間を驚嘆させ、絵画にもなり、海外に伝わった。一方、江戸幕府の禁教政策をよりいっそう強化させることにもなった。

Q 元和の大殉教の原因は何？

A 直接の原因は平山常陳事件と呼ばれる出来事にあった。事件のあらましは、次のようだった。元和6(1620)年、マニラから鹿の皮を満載して長崎に向かっていた、ドイツ人船長を乗せた船が、平戸を基地にしていたイギリス、オランダ艦隊の三隻に拿捕された。平戸に連行された。積荷の隙間に身を隠していた二人のスペイン人が見つかった。この二人は、アウグスチノ会士ペトロ・デ・ズニガ、ドミニコ会士フローレスだった。取り調べに当たった役人は、彼らが潜伏宣教師だと思いオランダ人の牢屋へ入れた後、長崎奉行長谷川権六と江戸幕府に使いを出した。二人は、長谷川権六と平戸の松浦隆信(松浦の面前で取り調べを受けた。二人とも宣教師であることを認めず、あくまで商人だと言いつつ、また、船乗りの命を救うために、関係者は二人が宣教師であると言わなかったが、背教者トマス荒木が身分を明らかにしてしまった。)

日本に着いたばかりのドミニコ会のコリアド神父は、長崎にいた数人のスペイン人商人の頼みに応じて、日本人信徒の助けを得てフローレスを牢屋から救出しようとした。しかし、成功しないばかりか信徒までもが捕らわれてしまった。さらに、計画にかかわる手紙も押収されてしまった。コリアド神父は逃亡し日本から離れることができた。このことが將軍秀忠の耳に入り、彼は激怒し、捉えられていた宣教師や信徒を処刑するように命じた。取り調べ開始から、過酷な拷問に耐えていた宣教師の二人だったが、1年4カ月後にズニガが自白し、フローレスも翌年の初夏に自白していた。キリシタンである平山常陳が、ルソンで商品の買い付け後、重大違反と心得ながらズニガとフローレスの要望を入れて日本潜行を助けた経緯も判明していた。



訃報



パウロ 藤原 昭神父(フランスシスコ会)は、9月4日、姫路聖マリア病院緩和ケア病棟で慢性腎不全のため帰天、79歳。兵庫県出身。

1979年、着衣。80年、初誓願。83年、荘厳誓願。86年、司祭叙階。司祭叙階

後、札幌北11条教会助任。釜ヶ崎「ふるさとの家」施設長、姫路聖マリア病院のチャプレンを務めた。貧しく小さくされた地域の人びとと親しく関わり、小さな人びとを大切にしている人だった。大阪釜ヶ崎(あいらん地域)でも初めのころから長年働いた。よく勉強する方で福音、本をよく読み、祈り、黙想して、それを生活に生かす証人でした。姫路に移ってから、さらに強くその生き方を証し周囲の方々にも認められていた。

青少年委員会

青年と子どもの錬成会を終えて



8月11日〜13日のお盆真っ只中に、4年ぶりの青年と子どもの錬成会を開催した。

10人にも満たない青年たちで「久しぶりにやってやるぞ!」と2月に覚悟を決め、感覚の鈍りや人手不足、空白による青年同士の連携の難しさなどを何度も痛感しながら、そのたびに当日の「あの一体感」を胸に準備を進めてきた。小学4年生から毎年錬成会に参加していた実行委員長の「錬成会という場を帰ってきたくなるようなみんなにとって居心地のいい場所に感じて欲しい。みんなが誰かの居心地の良い人になってほしい」という思いを少しずつ増えてきたスタッフたちで「あーでもないこうでもない」と考えながらプログラムを考えた。そして迎えた当日、台風からは逃れたものの、実行委員長を含めて3人がコロナによって参加を諦める事態となった。今、文章を書いている時点でも悔しくて涙が出そうになる。そんな3人の思いを背負い、急遽実行委員長の代理を私が行うことになった。そんなドタバタな中で行われた錬成会だった。初参加の参加者やリーダーが多い中で、今年もやはり3日目のミサでテーマソングを歌った時に「あの一体感」を感じることができた。子どもたちの笑顔と歌声に包まれる「あの空間」が来年も私たち青年を動かす動力源であることは確か。子どもたちが帰ってくるような場所を毎年作り続けていきたいと強く思った。

(文 枚方教会 荒川奈々恵)

2023. 10.15 Sun 12:30~16:00
St. Mary's Cathedral
大阪カトリック聖マリア大聖堂

インターナショナルデー
INTERNATIONAL DAY
2023

外国人が暮らしやすい社会は、日本人にも暮らしやすい
A society where foreign residents can live easily is likewise a society where Japanese people can easily live.

資料請求やお問い合わせは
教区本部事務局
総務課 管理部門
☎ 06-6941-9705

カトリック墓地
納骨堂・納骨所
使用者募集

大阪教区の信者の方のみがお申込みいただけます。
詳細は資料をお送りさせていただくほか、インターネットでもご覧になれます。

資料請求やお問い合わせは
教区本部事務局
総務課 管理部門
☎ 06-6941-9705